



三菱パイプ用ファン(電気式シャッター付) とじピダ[®]

(トイレ・洗面所用)

センサー	形名	グリル色調	電源仕様	機能
人感センサー	V-08PEA6	ホワイト	電源プラグ	停止タイプ
	V-08PEAD6	ホワイト	速結端子	
	V-08PEALD6	ホワイト	速結端子	24時間換気タイプ
	V-12PEAD6	ホワイト	速結端子	停止タイプ

据付説明書

販売店・工事店様用

据付終了後は、必ずこの説明書をお客様にお渡しください。

- 据付け、壁穴工事はお買上げの販売店・専門の工事店様が実施してください。(間違った据付け、工事は、故障や事故の原因になります)
- 電気工事は電気工事士の方が実施してください。
- 形名をよく確認し用途にあった場所に据付けてください。それ以外の用途には使用しないでください。(故障の原因になります)
- 形名によって据付方法が異なりますので、予めご使用の形名をご確認ください。
- 直接屋外に排気する場合は、雨水浸入防止のためシステム部材(屋外フードなど)を据付けてください。
- 雨水浸入防止のため外風の吹き付けの強い場所では風圧シャッター付深形フードを据付けることをおすすめします。
- V-08PEALD6の運転・停止には、システム部材、または市販のコントロールスイッチが必要です。
※ コントロールスイッチはP-11SWL2を推奨します。
上記コントロールスイッチをご使用にならない場合は、容易に停止されない工夫が必要です。
(例)・常時運転すべきことを指示する注意書きを掲示する。
・切ボタン(OFFスイッチ)にカバーを設ける。
・長押しでOFFとなるスイッチを設ける。
・専用ブレーカーを設ける。
- 接続パイプは市販品の塩化ビニル管または鋼板管のいずれかをご用意ください。

タイプ	適用パイプ	付属部品
V-08	・塩化ビニル管VP、VU(呼び径100mm) ・鋼板管(内径100mm)	木ネジ2本
V-12*	・塩化ビニル管VU(呼び径150mm) ・鋼板管(内径150mm)	木ネジ2本

*V-12PEAD6は塩化ビニル管(厚肉管VP)には据付けできません。

1.安全のために必ず守ること

据付けを始める前に、誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しておりますので、よくお読みになり、正しく安全に据付けてください。

警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

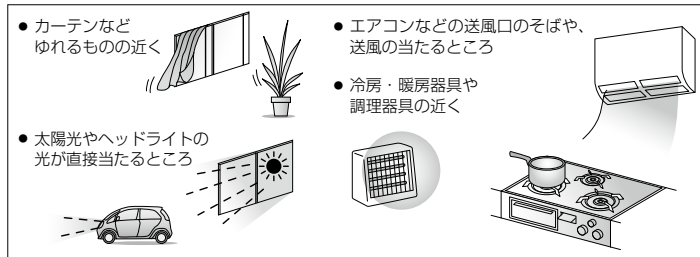
- 分解禁止**
 - 改造や工具を必要とする分解はしない(火災・感電・けがの原因)
- 水ぬれ禁止**
 - 製品を水につけたり、水をかけたりしない(ショート・感電の原因)
- 指示に従う**
 - 交流100Vを使用する(直流や交流200Vを使用すると火災・感電の原因)
 - メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが、電気的に接触しないよう据付ける(漏電・発火の原因)

注意 誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの

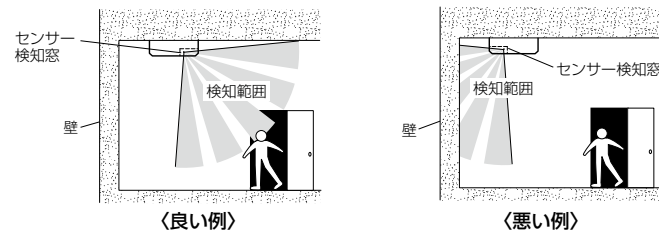
- 禁止**
 - 高温(40℃以上)になる場所や直接炎のあたる場所、油煙・有機溶剤・可燃性ガスのある場所には据付けない(火災の原因)
- 風品・シャワー室での使用禁止**
 - 浴室など湿気の多いところには据付けない(感電・故障の原因)
- 指示に従う**
 - 据付けの際は手袋を着用する(着用しないとけがの原因)
 - 本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に(落下によるけがの原因)
 - グリルや部品の据付けは確実に行う(落下によるけがの原因)
 - 電気工事は電気工事店に依頼する(感電の原因)
 - 電気工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う(接続不良や誤った電気工事は、火災・感電の原因)
 - 据付け後、長期間使用しないときは、分電盤のブレーカーを切る(絶縁劣化による感電・漏電火災の原因)

2.据付前のお願い

- 高温(40℃以上)になるところに据付けないでください。(故障の原因になります)
- 塩害、温泉害の発生している場所には据付けないでください。(故障の原因になります)
- 燃焼機器の排気口の近くには据付けないでください。(燃焼機器から排出された排気ガスが含まれた外気が、強風のときなどに室内に侵入すると、異臭などの原因になります)
- 以下のようなところには据付けないでください。(誤動作の原因になります)

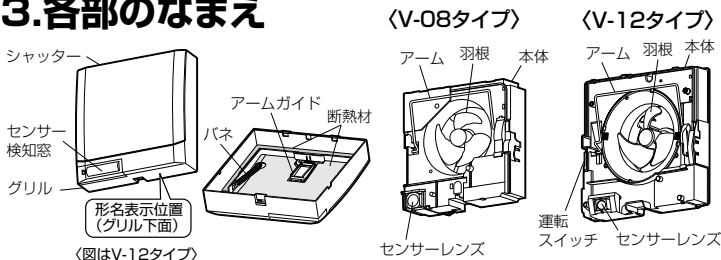


- 天井据付の場合、センサー検知窓を壁面側に向けて据付けないでください。(検知不良の原因になります)



- システム部材(屋外フードなど)は壁厚にあったものを選んでください。(壁厚により据付けられないものがあります)
- 天井・壁板は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものを据付けてください。
- アルミフレキシブルダクトへの据付はしないでください。(振動の原因になります)
- 効果的な換気を行うために給気口を設けてください。
- 電源が入った状態でシャッターを無理に押ししたり、引っ張らないでください。(シャッター機構破損の原因になります)

3.各部のなまえ



- 外形寸法図 ⇒ 梱包箱をご確認ください

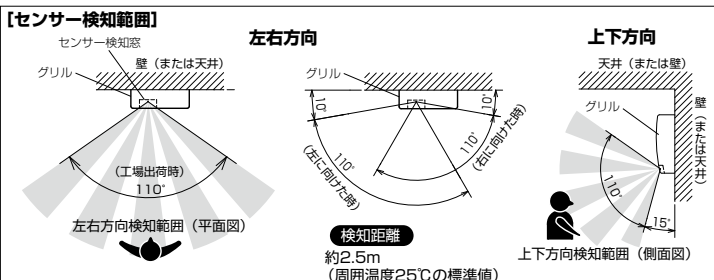
4.据付方法

1 据付前の準備

- 通常の入室の動作で人体を検知するよう、下記の検知範囲を参考にして適切な据付位置を選定してください。

センサー検知範囲

センサーの特性上、検知範囲(下図 部)を横切る動きは検知しやすく、センサーに真っすぐ近づく動きは検知しにくい場合があります。センサーレンズの向きは左右に変更することができますので、検知しにくい場合は検知しやすい向きに変更してください。

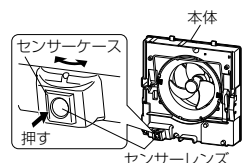


センサー検知範囲を左右に変更する場合

1. 本体からグリルをははずす。
● グリルのはずしかたは取扱説明書の5.お手入れを参照ください。
2. 手でセンサーケース(黒)の左右を押し、方向を変える。

お願い

- センサーレンズに無理な力をかけないでください。センサーケースを押し、向きを変えてください。



4. 据付方法 つづき

壁据付けの場合（壁穴への接続パイプの固定）

- 据付場所を決めて壁穴をあける。
 - 右図の壁穴位置をご確認ください。
 - 接続パイプは壁厚に応じて長さを決めてください。
 - 必ず床面より1800mm以上のメンテナンス可能な位置に据付けてください。

お願い

- 据付位置は右上図の位置になるようにしてください。
- 右上図の寸法より小さくなりますと製品が据付けられない場合やメンテナンスができなくなる場合、運転スイッチの切替えができなくなる場合があります。
- 吹き抜けなどの高い位置には据付けしないでください。（検知不良の原因となります）

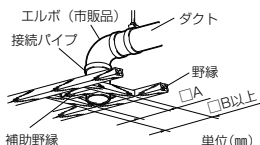
- 壁穴に接続パイプを確実に固定する。接続パイプと壁のすき間はコーキング処理を施します。
 - 電源電線を室内に引き込んでから（電気工事参照）行ってください。
 - 固定が不十分ですと振動したり異常音が発生する原因になります。
 - 室内への水浸入を防ぐため、接続パイプは室内壁面まで差し込みます。

お願い

- 接続パイプは雨水の浸入を防ぐため屋外側に下りこう配をつけ、固定してください。

天井据付けの場合（野縁工事とダクト工事）

- 下図のように野縁工事をし、ダクト工事をします。



タイプ	A	B	C
V-08	120	180	80
V-12	180	240	120

お願い

- 接続パイプが壁から右上図の位置になるようダクト工事を行ってください。
- 右上図の寸法より小さくなりますと製品が据付けられない場合やメンテナンスができなくなる場合、運転スイッチの切替えができなくなる場合があります。

- ダクトの中心から天井板まで185mm以上離して天井板を張る。
- エルボと天井板の間は接続パイプを接続する。
- 接続パイプと天井のすき間はコーキング処理を施す。

お願い

- ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外側に1/100以上の下りこう配をつけてください。
- 天井板に強度がないときは補強材を入れてください。

2 電気工事

電源電線の接続・電気工事などは、必ず専門の工事店へご相談ください。

- 市販のスイッチを使用される場合は適切なスイッチを選定して結線してください。
- 当社製以外の電子式スイッチ（半導体制御による速調スイッチ・タイマーなど）をご使用の場合は組合せ上、不具合が発生するおそれがありますのでご使用の際はあらかじめご確認ください。

警告

- 交流100Vを使用する直流や交流100V以外を使用すると感電の原因。

注意

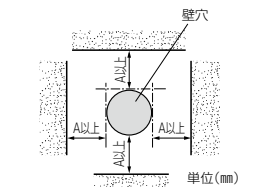
- 電気工事は電気工事士の方が「電気設備に関する技術基準を定める省令（及び同解説）」及び「内線規程」に従って安全・確実に行う。接続不良や誤った電気工事は、火災・感電の原因。
- 電気工事は電気工事店に依頼する感電の原因。

電源プラグタイプの場合

内線規程に基づくコンセントを室内の換気扇の近くに設ける。

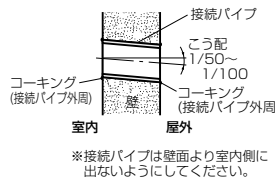
速結端子タイプの場合

- 電源電線を右図の位置から室内に引き込む。
 - 電源電線はVVVFφ1.6またはφ2.0 2芯をご使用ください。
- 電源電線の先端を右図に合わせて皮むきする。
 - 端子部への水の浸入・ほこりの侵入を防ぐため皮むき寸法を必ず守ってください。

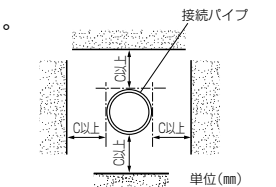


…天井、壁、または障害物（コンセント、カーテンレールなど）

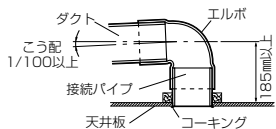
タイプ	A
V-08	80
V-12	120



※接続パイプは壁面より室内側に出来ないようにしてください。



…天井、壁、または障害物（コンセント、カーテンレールなど）



※接続パイプは天井面より室内側に出来ないようにしてください。

速結端子タイプの場合

電源電線の接続・電気工事などは、必ず専門の工事店へご相談ください。

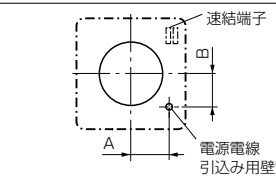
- 市販のスイッチを使用される場合は適切なスイッチを選定して結線してください。
- 当社製以外の電子式スイッチ（半導体制御による速調スイッチ・タイマーなど）をご使用の場合は組合せ上、不具合が発生するおそれがありますのでご使用の際はあらかじめご確認ください。

警告

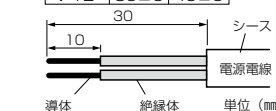
- 交流100Vを使用する直流や交流100V以外を使用すると感電の原因。

注意

- 電気工事は電気工事士の方が「電気設備に関する技術基準を定める省令（及び同解説）」及び「内線規程」に従って安全・確実に行う。接続不良や誤った電気工事は、火災・感電の原因。
- 電気工事は電気工事店に依頼する感電の原因。



タイプ	A	B
V-08	65±5	30±5
V-12	85±5	45±5



3 本体の据付け（壁据付け・天井据付けともに同様の据付けかたです）

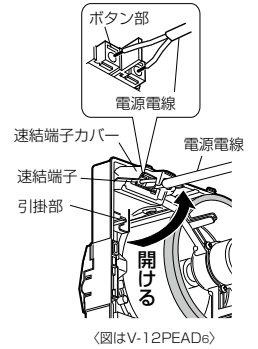
- 本体からグリルをはずす。
- 結線をする。（電気工事は電気工事士の方が実施してください）

速結端子タイプの場合

- 速結端子カバーを右図のように開ける。
- 電源電線を速結端子に差し込む。
- 速結端子カバーを元通り閉じ確実に固定する。

お願い

- 電源電線は確実に速結端子に差し込みます。速結端子より導体が出ないようにしてください。
- 電源電線を軽く引いて速結端子に確実に固定されていることを確認してください。
- 電源電線をかみ込まないように本体面に密着させて配線してください。
- 電源電線を速結端子よりはずす場合は、ボタン部（白色）を押しながら電源電線を引き抜いてください。



（図はV-12PEAD6）

電源プラグタイプの場合

- 電源プラグを左右から出す場合グリルの薄肉部を切り欠いてください。本体上部の切り欠き部は市販のテープなどでふさいでください。

お願い

- 電源コードをかみ込まないように本体、グリルの切り欠き部から引き出してください。

- 本体の上下を確認して接続パイプに差し込み、付属の木ネジ2本で本体を固定する。

- 本体の刻印「上」を上側にして据付けてください。
- 左右の据付用長穴をご使用ください。必要に応じて上下部ネジ穴（薄肉部）をご使用ください。
- 石膏ボードに据付けの場合は、市販の石膏ボード用アンカーを必ず使用してください。

お願い

- インパクトドライバーは使用しないでください。本体の固定部分が破損するおそれがあります。
- V-12PEAD6を床より2.8m以上の高い天井に据付ける場合は、付属の木ネジ2本で本体を固定後、市販の木ネジを使用して上下ネジ穴（薄肉部、上下2か所）を追加固定してください。

- グリルを本体に据付ける。

- ① アームを右図のように押し上げる。
- ② グリルの方向を間違えないよう本体に据付ける。

お願い

- グリルの据付けは、必ず電源を切った状態で行ってください。シャッター機構が破損するおそれがあります。

- 電源プラグタイプは電源プラグを専用のコンセント（単相100V）に差し込む。

- 以上の据付けが終了した後、本体とグリルが確実に据付けられているか確認する。

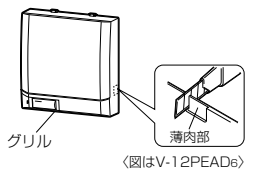
5. 試運転

据付けが終わりましたら下記の要領にて試運転を行い、正常に動作するか、異常な音や振動などがなければ確認してください。

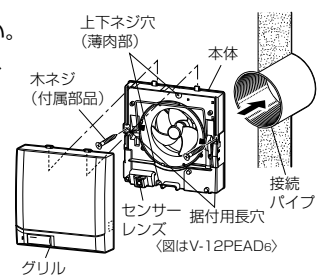
- 運転スイッチを「連続」にするとシャッターが開き換気扇が運転し、運転ランプ（赤）が点灯するか確認する。
- 運転スイッチを「切」にするとシャッターが閉じ換気扇が停止し、運転ランプ（赤）が消灯するか確認する。
 - 24時間換気タイプに「切」スイッチはありません。壁スイッチなどで運転・停止の操作を行ってください。
- 運転スイッチを「自動」に設定し、センサーが人の動きを検知するかを確認する。
 - 電源を投入する度に約1分間は強制運転しますので、電源投入後1分以上経過してから確認してください。
 - 人の動きを検知すると、停止タイプは停止→運転、24時間タイプ（V-08PEALD6）は弱→強運転に切替わります。

お願い

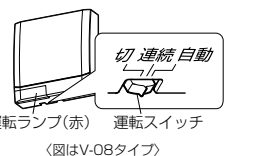
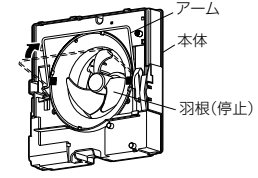
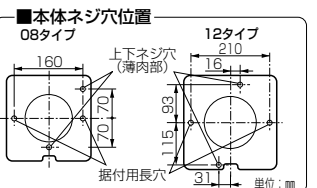
- 検知にくい場合は、センサーレンズの向きを調整し、再度確認してください。センサーレンズの向きの変更方法は4.据付方法の「センサー検知範囲を左右に変更する場合」を参照してください。



（図はV-12PEAD6）



（図はV-12PEAD6）



（図はV-08タイプ）